2026年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
23108	臨床栄養学 Clinical Nutrition	服部　哲也			2	必須	1後期

科目の概要

栄養士は食と健康に関する専門職で、臨床の場では正しい栄養管理により疾病の改善に大きく繋がるので、必要な専門知識、建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を総合的に身に付け、活躍しなければいけない。この科目では、糖尿病を始めとする多くの疾患においては、治療成績の向上に向け食事療法の重要性が一層高まってきているので、臨床現場で治療食等に関わる栄養士においても病態の正しい理解と栄養状態の適切な評価を基にした栄養管理能力が求められるようになってきたことから、それぞれの疾患ごとに病因や病態、診断方法と症状、栄養管理計画、モニタリング、評価等具体的な栄養管理法について身に付ける。この授業では、栄養士に必要な客観的な証拠に基づいて科学的に判断する能力を身に付ける。また、知識を獲得し活用することで課題解決に結びつけ社会的に自立して生きていく上で必要な食と健康に関する専門職に必要な専門的知識・技能を身に付ける（ディプロマポリシー③）。
★病院で管理栄養士として、食事療法を必要とする患者に対して献立作成や栄養指導を行ってきた経験がある。各疾患と食事療法の関係だけではなく、個人の栄養状態の把握から食事の摂り方へつなげられるよう、より実践的な内容となるよう心掛けている。

学修内容	到達目標
① 各疾患（循環器・内分泌代謝・腎臓・消化器等）の病因や病態、症状と食事療法について知り、説明できるようになることを目標とする。 ② 各疾患の診断方法と検査値について知り、説明できるようになることを目標とする。 ③ 各疾患の栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導について知り、説明できるようになることを目標とする。 ④ 各疾患について、科学的に判断する力を身に付けることを目標とする。	① 各疾患（循環器・内分泌代謝・腎臓・消化器等）の病因や病態、症状と食事療法の方針、栄養量、制限食品が説明・適用することができる。（DP.③） ② 高血圧を始め各疾患の診断方法と検査項目、検査値（判定基準）が説明・適用することができる。（DP.③） ③ 各疾患の栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導が説明・適用することができる。（DP.③） ④ 各疾患について課題を把握し、科学的根拠に基づき課題解決することができる。（DP.④）

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	高血圧を始めとする各疾患の食事療法を達成するという目標に向かって、指示が無くとも課題解決に必要な知識について、教科書等を使用して自己学修をすることができる。
	働きかけ力	
	実行力	困難があっても目標を変更せず到達することができる。
考え抜く力	課題発見力	病気の食事療法の進め方については、思い込みや憶測ではなく、事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。
	計画力	
	創造力	病気の食事療法等の検討等、物事を考える時には固定概念に捉われず、いろいろな方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	整理した内容を的確な文章で表現できる。さらに、発表の仕方を工夫して説明できる。
	傾聴力	人の意見を確認し、その意見から新たなことに気づき、さらに自分の意見を述べることができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

テキスト：「栄養科学シリーズNEXT　新・臨床栄養学　編（講談社）　価格 3,800円＋税
資料として「糖尿病食事療法のための食品交換表第７版」日本糖尿病学会編（文光堂）　価格　900円＋税
「腎臓病食品交換表第10版」黒川清監修（医歯薬出版）　価格　1,500円＋税　も使用します。

他科目との関連、資格との関連

関連科目：食事療法実習Ⅰ、栄養学、生理学、病理学、解剖学、栄養カウンセリング
資格：栄養士

学修上の助言	受講生とのルール
覚えることが多いので、教科書や資料等を活用し、次回講義までに関連科目の内容も理解して備えることと講義後は積極的に復習し、習得を図ってください。	授業中は、講義内容について積極的に質問してください。授業で配布する資料の予備は保管しません。出席者からコピーさせてもらってください。 不明な点は文献やインターネット等で調べ、習得の向上に努めてください。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	50	①	✓			到達目標の①②③に対応して、各疾患（循環器・内分泌代謝・腎臓・消化器・血液等）の病因や病態、症状と食事療法の方針、栄養量、制限食品の概要や語句の理解を試す問題を出題し評価する。 具体的には、高血圧を始め各疾患の診断方法と検査項目、検査値（判定基準）、栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導法の理解を試すとともに、獲得した知識の活用に関する問題を出題し、評価する。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
	平常評価	小テスト	20	①	✓			①小テストは後半期に1回行う。 ②高血圧、糖尿病、腎臓病の診断方法と検査項目、検査値（判定基準）、高血圧食、糖尿病食、腎臓病食の栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導法について、理解できているか確認する。 ③穴埋め問題、五択方式等で出題するが、出題範囲は授業で学修した内容とする。
				②	✓			
				③	✓			
				④				
		レポート	20	①	✓			①レポートは後半期に１回実施する。 ②課題については「各疾患の診断方法と検査値（判定基準）、食事療法の内容や栄養管理方法について」等、授業で学習した内容で、自分の言葉でまとめる能力を評価する。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①				
				②				
				③				
				④				
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性）各疾患の食事療法の達成に向け、指示が無くとも、自己学修をしていたかで評価する。 （実行力）困難があっても目標を変更せずに到達できたかで評価する。 （課題発見力）各疾患の食事対策については、思い込みや憶測ではなく、事実に基づき情報を整理し、課題を見極めたかどうかで評価する。 （創造力）食事療法の検討等、物事を考える時に固定観念に捉われず、いろいろな方向から考えられたかどうかで評価する。 （発信力）整理した内容を的確な文章で表現し、さらに発表の仕方に工夫があったかどうかで評価する。 （傾聴力）人の意見を確認し、さらに自分の意見を述べたかどうかで評価する。 （規則性）遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。
				②	✓			
				③	✓			
				④				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
各疾患（循環器・内分泌代謝・腎臓・消化器・血液等）の病因や病態、症状と食事療法、診断方法と検査値及び各疾患の栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導について習得ができ、論理的かつ的確に説明ができ、学修態度にも問題がない場合に（優）とする。 （秀）については、各疾患の栄養管理法や食事療法等について完璧に説明ができ、学修態度にも問題がない場合とする。	各疾患（循環器・内分泌代謝・腎臓・消化器・血液等）の病因や病態、症状と食事療法、診断方法と検査値及び各疾患の栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導について、習得ができ、論理的かつ十分に説明ができ、学修態度にも特段問題がない場合に（良）とする。 （可）については、授業内容について、習得かつ説明ができ、学修態度にも特段問題がない場合とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 臨床栄養学の意義と目的、栄養ケア・マネジメンの目的を理解する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にてフィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	臨床栄養や食事療法の意義や目的、栄養ケア・マネジメントについて説明ができる。	（復習）臨床栄養学の意義と目的、栄養ケア・マネジメントをまとめる。 （予習）臨床検査の異常値について教科書を読み、ポイントを整理しておく。P155	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
2	栄養評価、臨床検査 栄養評価の目的や臨床検査の基礎と異常値を理解する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	栄養評価の方法と検査値について説明できる。	（復習）疾患ごとの臨床検査値の名称と異常値をまとめる。 （予習）栄養補給ルートについて生体の栄養機能について整理しておく。P10～15	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
3	栄養補給法 経口補給法について食形態や治療食に理解する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	経口補給法についてそれぞれの特徴を理解し説明できる。	（復習）経口補給法の分類や疾患との関わりをまとめる。 （予習）経腸、経静脈補給法について、それぞれの特徴をまとめる。P23～28	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
4	栄養補給法 経腸、経静脈の特性を理解する 低栄養のリスクについて理解する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	栄養補給法についてそれぞれの特徴と低栄養のリスクについて説明できる。	（復習）栄養補給法の種類と選択、低栄養のリスクについてまとめる。 （予習）消化器系疾患の食事方針について教科書を読み、ポイントを整理しておく。P50～55	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
5	消化器系疾患 胃炎、潰瘍、胃がんの食事療法を理解する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	消化器系疾患の病因と症状及び食事療法の方針が説明できる。	（復習）胃腸系疾患の食事療法をまとめる。 （予習）消化器系疾患の食事方針について教科書を読み、ポイントを整理しておく。 Ｐ56～57	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
6	消化器疾患 下痢・便秘、炎症性腸疾患について食事療法を理解する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	消化器系疾患の病因と症状及び食事療法の方針が説明できる。	（復習）消化器系疾患の食事療法についてまとめる。 （予習）肝臓病の食事方針について教科書を読み、ポイントを整理しておく。 P65～71	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
7	消化器系疾患 脂肪肝、肝炎、肝硬変等の病因と食事療法を理解する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	肝臓病の病因と食事療法の方針が説明できる。	（復習）肝臓病の食事療法の方針をまとめる。 （予習）膵臓病の食事方針について教科書を読み、ポイントを整理しておく。 P72～78	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
8	消化器系疾患 胆石症、胆のう炎、膵炎の病因と食事療法を理解する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	胆のう、膵臓病の病因と食事療法の方針が説明できる。	（復習）膵臓病等の食事療法の方針をまとめる。 （予習）循環器疾患の食事方針について教科書を読み、ポイントを整理しておく。 P79～81	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	循環器疾患 高血圧の病因と食事療法を理解する。 小テストにて、前回までの学習内容について理解度を確認する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	高血圧の病因と食事療法の方針が説明できる。	（復習）高血圧の食事療法の方針と減塩の意義をまとめる。 （予習）心臓疾患等の食事方針について教科書を読み、ポイントを整理しておく。 P84～91	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
10	循環系疾患 動脈硬化、心筋梗塞、心不全の病因と食事療法を理解する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 小テスト（PC利用） 解説・質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	動脈硬化、心筋梗塞、心不全の病因と食事療法の方針が説明できる。	（復習）血圧や動脈硬化と心疾患の関係をまとめる。 （予習）糖尿病の食事方針について教科書を読み、ポイントを整理しておく。 P30～40	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	内分泌・代謝疾患 糖尿病の病因と食事療法を理解する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	糖尿病の病因と食事療法及び交換表の使い方が説明できる。	（復習）糖尿病の種類と食事療法をまとめる。 （予習）脂質異常症、痛風等について教科書を読み、ポイントを整理しておく。P41～48	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	内分泌・代謝疾患 脂質異常症、痛風、甲状腺機能亢進・低下症の病因と食事療法を理解する	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	脂質異常症、痛風等の病因と食事療法の方針が説明できる。	（復習）脂質異常症、痛風等の食事療法の方針をまとめる。 （予習）腎疾患の食事療法について教科書を読み、ポイントを整理する。P94～111	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
13	腎疾患 慢性腎臓病等の病因と食事療法を理解する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	腎臓病の病因と食事療法の方針が説明できる。	（復習）腎疾患の食事療法の方針をまとめる。 （予習）透析の食事療法について教科書を読み、ポイントを整理しておく。 P112～115	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
14	腎疾患 透析の食事療法と栄養管理を理解する。	講義（教科書・資料・パワーポイント） 質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	腎臓病の交換表の使い方と血液透析食の食事方針が説明できる。	（復習）血液透析の目的と食事内容についてまとめる。 （予習）呼吸器疾患の食事方針について教科書を読み、ポイントを整理しておく。P123～128	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
15	呼吸器疾患 慢性閉塞性肺疾患等の病因と食事療法を理解する。 レポート発表	講義（教科書・資料・パワーポイント） レポート発表、 解説・質疑応答にて フィードバックする。 （PC利用：NotebookLM）	呼吸器疾患の病因と食事療法の方針が説明できる。	（復習）呼吸器疾患の食事療法の方針をまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力